倉敷芸術科学大学大学院のポリシーと教育目標

倉敷芸術科学大学大学院では、「建学の精神」、「教育研究上の目的」、「人材の養成に関する目的」等に基づいて、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定めている。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学院を構成する各研究科の専攻分野で求められる研究能力及び資質を満たすと認められる者に対し、修士もしくは博士の学位を授与する。

修士の学位は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究・創作能力又は高度な専門性を要する職業等に必要な能力を有する者に授与するものとする。

学位授与の要件として、所定の期間在学し必要な単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査並びに最終試験に合格することが求められる。

博士の学位は、専攻分野の研究者又は専門性の高い職業人として自立して活躍するために必要とされる高度な研究・創作能力と、その基礎となる豊かな学識を有する者に授与するものとする。

学位授与の要件として、所定の期間在学し必要な単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査並びに最終試験に合格することが求められる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

修士課程を有する各研究科では、学位授与方針に掲げる人材を養成するため、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を編成する。

また、複数の指導教員体制により、研究指導計画に基づいて、学生の能力を最大限に引き出すことのできるきめ細かな学位論文作成指導を行う。

博士（後期）課程では、研究者や専門性の高い職業人に必要とされる高度な研究・創作能力と、その基礎となる豊かな学識を養うために、制作表現研究を通して、少人数個別指導型の学位論文作成指導を行う。

芸術研究科

修士課程	美術専攻	学位：修士（芸術）
------	------	-----------

■ 教育目標

これまでの美術領域における教育、及び作品制作をふまえて、それぞれの系列における制作研究に加えて理論研究の研鑽を積み、独自の視点からその表現方法を構築し、独創性のある芸術作品の創造者の育成をめざします。あわせて、その専門知識や技術、研究成果をふまえて、倉敷はもとより中四国、学生の出身地域において芸術文化の普及やその質の向上に貢献できる人材の育成、さらに映像系列においては、その関連業界において活躍できる人材の育成を行います。そのために、本専攻では学内の研究だけに専念することなく、各種コンクールへの応募、展覧会や個展での作品発表、芸術文化イベントへの参加を行う等、芸術の社会貢献における意義の実践を通じた考察を行うとともに、系列を横断する研究を行い、広く芸術領域の造詣を深める教育を行います。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

美術専攻において学位の取得にあたっては、芸術的感性によって直観力を高め、社会から遊離することなく、知識や経験に基づいた論理的判断をくだせる力を養うことが必要である。

それらの成果は美術作品の制作を通じて反映される。社会的に受け入れられ、共鳴を得る制作を第一の基準として評価する。

1. 絵画・彫刻・工芸・映像・デザインの領域で専門的な基礎知識を体系的に身につける。
2. それらの専門的知識を、制作を通して目に見えるかたちにあらわす。
3. 制作の成果をまとめ、展示や報告書で発表し、社会の評価を受ける。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは制作と理論の2つの領域を過不足なく履修するよう編成されている。

制作に関しては課題をこなす対応能力と、自主制作を重視する創造力を各領域の性格に応じてバランスをとりながら運用している。

研究成果としての修了制作は報告書を含めて判定されるが、それぞれ修了制作展と研究報告会を開催し、公的に評価される。

芸術研究科

博士（後期）課程

芸術制作表現専攻

学位：博士（芸術）

■ 教育目標

大学院修士課程を修了し専門領域において高度な表現能力を有する学生、また芸術領域で活躍する社会人において、修士課程における教育を継続しながら、さらに高度な制作研究を積み重ねてその領域を極めます。あわせて、倉敷における近代の文化的背景も視野に入れつつ、芸術領域から哲学や科学等含めた幅広い学際的造詣を深め、自己の表現をふまえた理論研究にも重点を置き、芸術に対して自立した表現者としての自覚を元に、地域における芸術文化の中核を担い、その活動が今日の芸術活動に少なからず貢献することができる専門家の育成を目指します。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本専攻においては、自立した表現者としての誇りと社会に向けての積極的な問いかけを通じて、地域における芸術文化の中核をなし、加えて国際的な競争力を身につける。

さらには領域を横断して、広い範囲の芸術分野に発信していくことのできる知性と感性を備えた人格を、制作と論文の作成を通して実現する。

1. 絵画・彫刻・工芸の各分野の専門的知識を、国際的レベルに至るまで深く探究する。
2. 他領域の専門を自己の分野に取り込んで、独創的な個人様式を確立する。
3. 研究成果を、個展をはじめ公的な発表を通じて、社会に問いかける。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

カリキュラムは各学生の専門領域の「制作表現研究」を中心に編成されている。

これに「芸術理論総合研究」と「領域横断特別研究」という科目を加えて、広い視野をもつことで孤立することなく、つねに社会性に根ざした表現活動を推奨するシステムをつくり出している。

研究成果は各学年での公的な中間報告会を経て、美術館での修了制作展で発表される。

産業科学技術研究科

修士課程

機能物質化学専攻

学位：修士（産業科学技術）

■ 教育目標

化学、生物学等の専門分野の学際領域を視野に入れた教育と研究を行い、柔軟な探究精神と統合的視野をもって物事を判断し得る能力を備えた人材の養成を目標とします。

■ ディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 化学またはバイオサイエンスに関する基礎的な専門的知識、研究能力を体系的に身につける。
2. 基盤理論及び一般的実験手法、研究組立手法を理解し、論文作成のための研究の方針・方法を身につける。
3. 実験方法や結果を教員や他の学生と議論しながら研究を遂行できる。
4. 実験結果を整理し、論文、レポートとしてまとめ、発表することができる。

■ カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門科目に加え関連分野の特別講義、全教員によるゼミナール、特別研究で構成されている。

講義科目を受講するとともに特別研究を行うことにより、体系化された専門的知識、実験手法を修得し、必要な情報を収集、整理活用することができるように配慮している。

研究結果や個々の考えを要領よく発表し、論理的に応答する訓練の場として、半期ごとの発表会を行っている。